

和歌山

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本 0736(32)0063
御坊 0738(22)2511
田辺 0739(26)1026
【広告問い合わせ】073(423)9291
【購読問い合わせ】0120-468012

星の占い
マーク・矢輪
5日

木村屋 一橋本市



鉄芯に巻き付けたカーボンファイバーは、手作業で微調整する
—いずれも橋本市隅田町垂井で

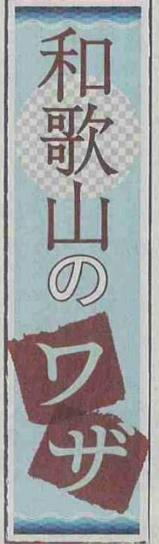
カーボンファイバーパイプ成形

9割がたは再現できます。30歳を前に和歌山に戻り、会社を継いだ木村社長は、一からパイプ成形の技術を学んだ。カーボンファイバーには、原材料や密度、弾力性などの違いによって約600もの種類があるそうだ。

同社では、シート状の固

カーボンファイバーという素材、わりとよく耳にする。軽くて丈夫なのが特長だ。金属ではない。その正体は、アクリルなどを高温で焼いて炭化させた「繊維」。

木村屋橋本市は、淡水用の釣りざおを中心に産業用のポールなどを製造して約半世紀。「先代、釣りが趣味だったんで、ざお作りの修業をして、独立したんです」と木村匡伸社長(58)。



会社設立時は、ちょうどグラスファイバーが世の中に普及し始めたころだった。自社ブランドのざおや地方独特の釣りに用いる専用ざおなどを作り続け、円形パイプの成形技術を蓄積。30年ほど前にカーボンファイバーが出現し、素材の主流となった。

「どんなざおでも、8〜

細さ極めトツプ目指す

内産カーボンファイバーを用途に応じて裁断し、マンドレルという鉄芯に巻き付ける。表面をラッピングし、高温炉で焼いた後、鉄芯を抜き取る。最後に塗装をかけて完成、という手順を踏む。最長2分40秒までのパイプ成形が可能だという。

ただ、作っているのが円形ではなくパイプだけなので、なかなか用途が広がらない。カーボンファイバー素材の太いパイプや長いパイプは、既に他のメーカーが地盘を固めている。木村社長が「強み」としているのは直径30mm以下の精度、中でも1mm以下の細いパイプの成形だ。「今は0.8mmが限界ですけど、0.5mmにま

で持っていきたい。そのところでトツプを目指したい」と言葉に力が入る。コロナ禍にあって、キャンプ用に特化したポータブル釣りざおを作った。おしゃれなイメージを意識し、外觀や配色を全てデザイナーに任せたり。トートバッグに収まり、一見ただけでは釣りざおと分からない。ブランド名「FIELDDOM」で3月末から販

売している。「広がり」を求めて、試みた。

■業種 カarbonパイプ製造業
■所在地 橋本市隅田町垂井40の2
■設立 1987年
■資本金 1000万円
■従業員数 約20人

【中川博史】



「100年間使い続けられるカーボンパイプを作りたい」と話す木村匡伸社長



5月からは販売開始したキャンプ用のポータブル釣りざお「おしゃれ」に変わった。製作見本のさおはパイプ